第４回新静岡県立中央図書館基本構想改定に係る有識者会議
会議録（詳細版）

論点１：若者世代が期待する新県立図書館の役割や機能等

●白石天晴さん

・新図書館期待することとして、「得られる情報・体験の質」、「教育機会の公平性・中立性」、「提供する情報の幅広さと深さ」の３点を担保して欲しい。
・大学図書館で研究資料は充足しているが、自分の将来を考えたときにも、大学図書館や学校図書館など、正確な情報を得るためのより所がない世代（未就学児、社会人）は特に大切にして欲しい。
・県立図書館には「ここに来れば県内の正確な情報がすべて得られる」という安心感や情報の拠点としての心強さがあって欲しい。
・エンタメや気軽さは市町の図書館や民間に任せ、県立図書館は機能性や質、内容を重視すべき。
・建築等のデザイン面では、文学作品も扱うため、非現実に浸れるような芸術性も無視できない。

●鈴木彩菜さん

・学校や所属などの枠を超えて交流できるのが図書館のような公共施設だと思うため、学ぶことをきっかけに人と出会うことができる場所になって欲しい。
・これから更に AI との対話が増えていくと思うからこそ、実際に対面で顔を合わせて学び、繋がることの価値が今後の図書館には求められると思う。
・大学生や高校生が下の世代の中高生に勉強を教えるような、多世代が交流できる仕組みを導入してほしい。

●宮嶋羅布茉さん

・より専門的な情報の集まる県立図書館には、情報へのアクセスがさらに容易になることを期待している。
・「こえのもりしずおか」の意見にもあるように、デジタル資料の充実やチャットによるレファレンスなど、遠方からでも利用できるサービスの充実が期待されている。
・自分が子供の頃もレファレンスサービスの受け方自体が分からなかったように、知らなければ利用できない。インターネット検索から更に専門的なことを調べようとしたときに、チャット等で気軽に専門家へ相談できるような仕組みがあるとよい。

●古賀涼介さん

・AI は情報の検索には便利だが、「何を調べるか」という問いや関心の端緒を見つける機能が不足している。自分が初めて県立図書館に行ったときに静岡の歴史の本に興味を持

ったように、未知の分野に興味を持つきっかけを県立図書館が担うべきである。
・学科ができたばかりで大学図書館にも専門書が充分になく、また学生にとって専門書は高価で手が届かないため、県立図書館には専門書や電子書籍での閲覧サービスを充実させてほしい。

●片瀬愛理さん
・静岡県立図書館のオンラインサービスは豊富だが、大学の授業等で初めて知った。授業等で教わらない限り一般には知られていない。地域資料の劣化や破損が進む中で、オンラインに保存されていることは重宝される点だと思う。利用者のオンラインデータへの接点を作る企画やイベントを期待したい。
・駅近という利点を活かし、物理的なバリアフリー化を徹底し、いろいろな特性を持った方々や県中部在住でない方々なども、読書や勉強以外の目的を持って、体験やイベントができる施設になれば良いなと思う。

●上原菜月さん
・今後増えていく外国人住民、特に外国ルーツを持つ子供たちのために、館内の「やさしい日本語」表記の徹底や、英語の絵本の読み聞かせ、日本語教室を通じた図書館見学ツアーなどにより利用のきっかけを作ることで、権利や図書館で勉強できるという繋がりができると思う。

●佐藤法哉さん
・AI 時代だからこそ、国籍や世代を超えて直接話し、異なる考え方に触れるコミュニティの場としての役割が重要になる。
・子育て世代が周囲に気兼ねなく過ごせるスペースを充実させ、親子同士が交流できるイベントなど、幼少期から通う習慣を作ることが、将来的な図書館利用の継続に繋がる。

●伊藤ミモザさん
・調べものをしたい人はデジタルですぐに調べられることを重視していると考えられる。一方で、図書館にわざわざ足を運びたいと思われるためには、「ワクワクする空間（夢の国のような世界観)」や、専門家と日替わりで話せる機会、美術館や博物館とのコラボ、様々な人と交流できるイベントなど、体験を重視することが大事。
・県立図書館を知ってもらうために、SNS やゆるキャラの活用、あるいは椅子や机の角度にこだわったうえで、「日本一集中できる勉強スペースあります」といったキャッチフレーズで知名度を向上させる戦略が考えられる。

●朝比奈会長（総括）
・図書館はこれまで「リアクティブ（受動的)」でも機能してきたが、これからは「プロアクティブ（能動的)」な姿勢が不可欠である。

論点２：基本構想改定案

●伊委員（静岡大学情報学部助教）
・海外の事例（オーストリアやルーマニア）を見ても、閉館後の図書館を使ったコンサートや、美術館や博物館との連携展示など、積極的なコラボレーションは共通の潮流である。
・例えば、学生は授業等でも学ぶが大人が学ぶ機会の少ない「AI リテラシー」などの講座を、県立図書館の役割として打ち出すとよい。

●岩田委員（(株)谷島屋 静岡営業部部長）
・電子書籍や AI などの普及により調べること自体は容易になったが、「何を調べるか」を見つけるきっかけを図書館が担うべきである。
・デジタルの時代だからこそ、あえて足を運びたくなる「知的好奇心が湧く場」としての存在意義をどう県民に伝えるかが重要となる。

●岡本委員（アカデミック・リソース・ガイド(株)代表取締役）
・基礎自治体（市町）を徹底的に支える県の役割が明記されている点は非常に評価できる。
・「価値創造」という用語は他県でも使われているが、本当に価値創造ができているのかという疑問がある。また他県の後追いのような印象もある。
・価値創造という用語は、行政が価値を規定するような危うさも孕む。むしろ「問いを生み出す」「問いをエンカレッジする」といった、静岡独自の本質的な表現を検討してはどうか。
・民間活力の導入を軸とした施設の整備手法と、開館後の管理運営の手法については峻別して書かれており、共通認識を得られたと考える。

●川村委員（静岡図書館友の会代表）
・基本構想はよく考えられている。
・基本構想の参考情報の「見直しの方向性」に関し、施設規模は見直し前計画の１万 9,800 ㎡程度を確保してほしい。整備手法については、市町立・学校図書館支援や地域資料の網羅といった直営が担うべき機能と、カフェ運営や施設管理等の民間を活用する部分との峻別を、次の計画で明確にしていただきたい。
・資料の分散保管に関し、長期的スパンでは管理コスト増の懸念があることを踏まえ、２つの施設の役割分担について注力して検討していただきたい。
・現行県立図書館の老朽化が著しい現状に対し、職員の労働環境や利用者の安全確保の観点から、新図書館の完成を待たず早期に対策を講じてほしい。
・評価指標は、市町立図書館と同様の数値だけでなく、市町立図書館へのバックアップ度や県民のウェルビーイングへの貢献度といった、県立図書館ならではの新たな指標を検討していただきたい。

●小久江委員（袋井市教育委員会生涯学習課）
・資料情報の収集に関し、「永年保存」と「デジタル化に伴う除籍」の記述が曖昧であるため、貴重資料や地域資料の永年保存を前提とした合理的な除籍基準について、今後検討していただきたい。
・基本構想概要版において、高い専門性を持つ職員（司書）が実務を担うといった「誰が業務を行うのか」を明記し、パッと見た方にも安心感を得られるようにしてほしい。
・今後の基本計画の策定にあたっては、現在勤務している県立図書館職員がどのようなサービスを提供したいかという現場の声を聞き取り、それを実現できるような計画にしていただきたい。

●林委員（静岡文化芸術大学教授）
・図書館学に資料収集における「価値論」（教育的価値の重視）と「要求論」（利用者の要求の重視）の歴史的議論がある。今回の「価値」とは違うが、「価値創造」という表現は特定の主体による価値判断を連想させかねないため、「問いをデザインする」といった表現は良い印象である。
・現行館の老朽化による人的被害のリスクや南海トラフ地震への備え、さらにインフレに伴う建設費高騰の懸念から、PFI 導入等で長期化が予想される本館整備を待たず、先行して別棟（分散保管先）の着手・資料移転を行うなど、スピード感のある対応を検討していただきたい。
・郷土資料の活用に関し、八戸市の事例（駅近接施設での展示等）を参考に、住民のみならず観光客や通行人もターゲットに含め、駅前など人流の多い場所でのデジタル情報発信や展示方法の工夫を基本計画において検討してほしい。

●野末委員（青山学院大学教授）
・これまでの有識者会議の意見や県民の意見が上手く取り込まれている。
・分散保管はまだ疑念が残っているようなので、メリットとデメリットをより整理して書き込むべき。「資料提供に時間がかかる」というデメリットも、地域への配送や返却待ちと本質的には同じであり、即座に必要な情報の貸出制限など「コレクション全体の構築と運用」の観点で記述するのが適切である。
・運営方式は「直営ではなくなる」と受け取られかねないため、県として責任を負うべき部分は果たすというニュアンスをもう少し書き込めると良い。
・価値の定義を利用者視点で深掘りし、「県立図書館にしかできないこと」に優先順位を置くとともに、山間部などサービス未到達地域へ「出かけていく仕組み」を構築することが、施設縮小に伴い重要となる。
・基本構想を完成させて終わりではなく、構想をもとに具体化し、進化・成長し続けるという姿勢を明確に謳うことで、現在の懸念も軽減できる。

●朝比奈会長（総括）

・デジタル化・AI 化の進展や国際関係の変化といった激動の時代に対応し、受動的な図書館から「能動的に問いを立てコラボレーションする図書館」へと転換していく必要がある。

・基本構想の最終的な文言調整については、委員から一任の意向を得たため、会長および事務局において本日の意見を反映させつつ最終化する。

・全４回にわたる大変積極的な議論に感謝申し上げる。